

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会 2025 年度 第 1 回理事会 議事録

日 時：2025 年 6 月 19 日（木） 15:00~17:20

場 所：北九州国際会議場 2F 21 会議室

出席者： 理事長 石田 秀行
副理事長 青木 大輔 石川 秀樹
理 事 有賀 智之 井本 逸勢 大住 省三 川崎 優子 隈元 謙介 下平 秀樹
西垣 昌和 平沢 晃 平田 敬治 門馬 智之 山口 達郎 吉田 輝彦
監 事 鈴木 眞一 武田 祐子 田村 和朗
司法書士 寺本 俊孝
オブザーバー 織田 信弥
事務局：内山 覚巳 皆川 裕美 堀端 里沙

理事 15 名、監事 3 名が出席し、本会が成立することが確認された。以下、石田理事長が議長となり議事を進行した。

議 事：

【報告・審議事項】

1. 理事長報告

石田理事長より、当日提示スライドにもとづき、MGPT の手引き Web 講演会の開催、MGPT の手引き印税・転載許諾の確認、厚労科研平沢班の会議出席について、Lynch 症候群の診断確定のための遺伝学的検査について厚労省がん疾病対策課に相談した件、理事選挙結果確認、新理事体制に対する助言、遺伝性腫瘍セミナー・専門医 E-learning の転載許諾について報告があった。

2. 第 31 回学術集会平田敬治会長、織田信弥会長より、挨拶があった。

3. 庶務報告

配布資料にもとづき、会員数・新規入会者（2025 年 5 月 31 日現在）、会費納入状況（2025 年 5 月 31 日現在）について報告があった。2025 年度の年会費請求は、学術集会後に行う予定であることが報告された。

4. 各種委員会報告・審議

① 総務委員会：平田理事（報告）

資料にもとづき、前回理事会以降の通信理事会決議事項、理事選挙ほか新役員体制について、新役員による委員会体制について報告があった。

② 会則委員会：門馬理事

報告事項なし

③ 財務委員会：大住委員長（報告・審議）

2025 年度予算案について、会費収入、遺伝性腫瘍セミナー収支について前年度の金額を元に修正したことが報告された。会費収入の金額については、会員数で計算することになっているため、次回理事会で再度修正を継続審議することとなった。また 2024 年度決算について報告、承認された。

④ 遺伝性腫瘍セミナー委員会：吉田理事（報告）

資料にもとづき、第 27 回遺伝性腫瘍セミナーの開催報告、第 3 回遺伝性腫瘍アドバンストセミナーの開催報告、第 28 回遺伝性腫瘍セミナー開催案内、受講費の設定変更、第 4 回アドバンストセミナーの開催予定について報告があった。

⑤ 専門医・HTC/FTC 制度委員会（報告・審議）

●専門医制度小委員会：隈元理事

当日資料として、正規遺伝性指導医申請者リストが提示され、承認された。資料にもとづき、2025年度 E-learning 配信予定のコンテンツについて、2025年度遺伝性腫瘍専門医試験の実施予定について報告があった。また、E-learning については、転載許諾等の理由で配信期間が設けられており、冊子にすることも難しい状況であることが報告された。

●HTC/FTC 小委員会：川崎理事（報告）

資料にもとづき、学会 HP：HTC 活動紹介ページの開設、遺伝性腫瘍コーディネーター規則改定、第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会においての単位対象セッションについて報告があった。小委員会メンバーの増員については、次回理事会で審議・承認する予定となった。

⑥ 学術教育委員会：平沢理事（報告）

資料にもとづき、MGPT の手引き 2025 年の発刊、および解説 Web セミナーの開催について、第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会教育セッション、第31回日本遺伝性腫瘍学会学術集会会期中の市民公開講座開催、9月に長崎で開催される市民公開講座について報告があった。

⑦ 保険診療委員会：平沢理事（報告）

資料にもとづき、R8 年度診療報酬改定に対し、遺伝性腫瘍関連学会（日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会）との共同作業について、R8 年度診療報酬改定の最終提案書の提出について報告があった。

⑧ 将来検討委員会：石田理事長

報告事項なし（Lynch 症候群委員会の創設については該当委員会より報告あり）

⑨ ガイドライン委員会：大住理事（報告）

資料にもとづき、Li-Fraumeni 症候群の診療ガイドラインの改訂作業の進捗状況について報告があった。

⑩ COI 委員会：大住理事（報告）

学術集会後に、2025 年度新役員（理事・監事）への COI 開示の案内について報告があった。

⑪ 倫理審査委員会：井本理事（報告）

資料にもとづき、日本遺伝性腫瘍学会学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する指針の継続使用について報告があった。

⑫ 広報委員会：有賀理事（報告）

資料にもとづき、2024 年度の活動報告、News letter 発刊状況、転載に関する審査、英文ホームページの修正について、ならびに 2025 年度の活動予定について報告があった。現在厚生労働科学研究費補助金により作成されている MGPT の手引きに関するコンテンツは、研究費の期限が終了する頃に当学会のホームページへ掲載を移行する手続きを進めていく予定である旨の報告があった。

⑬ 国際委員会・がんゲノム・データベース（GDB）委員会：山口理事（報告）

資料にもとづき、第4回トラベルグラント賞受賞報告が News letter No.9 への掲載、第5回トラベルグラント賞選考結果、遺伝性腫瘍国際学術集会の会員向け配信について報告があった。また、InSiGHT より、遺伝性大腸がんおよびポリポーシス症候群を特定するための遺伝子検査に関する国別の推奨事項について情報提供依頼があったこと、これに対して、遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2024 年版、同ガイドライン 2020 年版的英文誌、MGPT の手引き、過誤腫性ポリポーシスガイドライン等について回答を行った旨の報告があった。

なお、がんゲノム・データベース委員会の廃止については、新体制の理事会で審議予定であり、予定していた Lynch 症候群レジストリ研究は、「Lynch 症候群委員会」で活動をする予定である旨の報告があった。

⑭ 臨床委員会 Lynch 症候群委員会：山口理事（報告・審議）

資料に基づき、Lynch 症候群委員会規約について提示され、承認された。委員会委員については新理事・監事による新理事会で審議することとなった。また、今後の活動として、Lynch 症候群レジストリ研究の実施および Lynch 症候群診療ガイドラインの作成を予定している旨の報告があった。

⑮ 遺伝カウンセリング委員会：西垣理事（報告）

資料にもとづき、遺伝性腫瘍を専門としないがん診療従事者（非会員を含む）への啓発動画（看護師編）が完成し、Medical Prime よりフリーで視聴可能である旨の報告があった。また、Cowden 症候群サーベイランス手帳の作成協力について前回ご指摘があった部分の修正中である旨の報告があった。

⑯ 作業部会委員会：石川理事（報告・審議）

資料にもとづき、LFS 部会、Cowden 症候群部会、SPS 部会、PJS 部会、遺伝性びまん性胃癌部会 (HDGC) 部会の活動状況について報告があった。HDGC 部会について、部会員 3 名の追加があり、承認された。PJS 部会について、中山佳子先生から坂本博次先生に部会長を引き継ぐことが承認された。HDGC 部会について、名称に乳癌も追加してはどうかとの意見があり、部会でも検討中である旨の報告があった。

⑰ 編集委員会：下平理事（報告）

資料にもとづき、『遺伝性腫瘍』の発刊状況、投稿論文の審査状況および今後の予定について報告があった。また、投稿推薦については、第 31 回学術集会より、各セッションの座長にアンケート用紙で推薦いただくことが報告された。

5. その他（報告・審議）

- ・日本レックリングハウゼン病学会より、理事長宛てに NF1 診断基準の改訂についての案内があり、ご意見並びにご承認をいただきたいとの連絡があった。これについては、新体制のガイドライン委員会で対応することとなった。
- ・第 32 回学術集会について、井本逸勢会長より準備状況の報告があった。
- ・第 33 回学術集会について、有賀智之会長より日程、会場の報告があった。
- ・第 34 回学術集会について、平沢晃理事が推薦され、承認された。

現理事体制での最後の会議となり、全理事・監事より一言ずつ挨拶があった。

以上をもって議事の全部を終了し、議長は 17 時 20 分閉会を宣した。

以上議事経過ならびに結果を明確にするため本議事録を作成し、理事長および出席監事は次に記名押印する。

以上